

# 教育・文化

## 小平の学校教育の充実に向けて

けは学校内外の諸活動の支援者及びパートナーである。

②大きな違いはないが、学生は授業支援の活動が多い。

木村まゆみ議員(共産) ①一斉学力テストの結果公表に対する考えと情報流出防止策は。

②特別支援教育の実施状況は。

③特別支援学級の現状は。

教育長 ①結果の公表は行わないこととし、個人情報の保護にも十分配慮している。

②特別支援教育コーディネーター等を中心に、校内体制の充実を図っている。また、個別指導計画を作成し、適切に支援できるよう取り組んでいる。

③5月1日現在、小学校は8校で25学級、中学校は3校で9学級である。

## 学校支援ボランティアの役割と活用について

岩本博子議員(緑ネ) ①小・中学校における活用的と位置づけは。

②学生ボランティアと社会人ボランティアの違いは。

③子どものプライバシーや指導方法などの研修が必要では。

教育長 ①教育活動をより充実させることを目的とし、位置づけは。



ボランティアによる授業

## 放課後子ども教室 児童クラブについて

③教育委員会内部で再利用のためのいわゆるリユース掲示板を設け、情報を共有し相互利用している。

## 特別支援教育と 介助員について

④保護者や子どもの放課後の生活を支援することと考える。

華表 暁議員(共産) ①放課後子ども教室運営委員会の検討状況は。

②自治会など地域との連携は。

③児童クラブの施設整備等についての認識は。

④児童クラブの意義は。

教育長 ①第1回目は安全管理や地域協力者確保についての方策、児童クラブとの連携などについて検討した。

②地域の協力が必要となるのでコーディネーターを中心に関係機関等との連携を図る。

市長 ③入会児童の状況に応じた必要な整備を図る。

## 防災・安全

### 安全で安心なまちづくりについて

斎藤貴亮議員(フオ) ①安全なまちづくり条例のようなものを制定する考えはあるか。

②市境にある交番と市内の交番との連携は。

③市内の交番配置は適切と考えているか。

市長 ①都の安全・安心まちづくり条例に基づき市の防犯事業を展開していきたいと考えているので、現時点では制定する予定はない。

②緊急の事案は警察署の管轄区域を越えて応援体制をとることができると聞いている。

③適切に配置されていると認識している。

## 公園・用水

### 野火止水の今後の管理と整備及び活用について

佐野郁夫議員(政和) ①境界確定や遊歩道整備の考えは。

②ごみ処理や護岸整備の今後の計画は。

市長 ③今後の整備や活用の考えは。①隣接市や沿道地権者と調整し、境界確定に努めたい。遊歩道整備は当面考えていない。

## 玉川上水、野火止水などの 樹木等の管理について

市と調整を図りながら対応したい。護岸については、計画性をもって補修をしていきたい。

## 中央公園利用者の希望する 施設改善ができないのか

③緑道として整備した所であり、また魚の隠れ場として必要なので現状を維持したい。

藤原哲重議員(フオ) ①住宅地に密着した樹木の剪定に対する考えと剪定件数は。

②パトロールや伐採の件数は。

③今後の管理計画は。

市長 ①住宅に直接影響のある樹木を優先的に剪定等している。平成18年度は186件剪定した。

②定期的なパトロールは行っていないが、樹林地等の現場に行くときには、樹木の状態を把握するようにしている。平成18年度の伐採件数は60件である。

③現在のところ具体的なスケジュールはないが、危険と思われる樹木等については優先的に剪定等を行っていく。

## あじさい公園の親水、用水路を 自然に近い小川に改修を

鴨打喜久男議員(政和) ①観察水路部分を、水中生物が育ち、とることのできる地区にできないか。

②延長した水路は、生物が隠れられるように改修しては。

③地下水路となっている部分のふたをとって、小川にできないか。

市長 ①魚などが育つ環境となっているので、観察等ができる水路として維持していきたい。

## 公園の環境整備と 目的別活用の推進のために

虹川 浩議員(公明) ①高齢者向けなど目的別公園の実現は。

②公衆トイレや、手洗い場の新設や増設はできないか。

市長 ①公園リニューアルの段階で高齢者を対象とした公園や、原っぱ公園などを地域の人々と検討していきたい。

②トイレは需要を満たしているが、改修時には健常者も障害者も利用できる誰でもトイレを設置したい。手洗い場の設置は砂場のある公園を優先したい。



延長した水路

## 児童性

### 小平市におけるDVの現状と支援について

石毛航太郎議員(フオ) ①DV被害者の心理面等に対する包括的な支援体制は。

②外国人妻への対応は。

③国、都、警察、医療との連携は。

市長 ①専門の職員が行っている。また、配偶者暴力相談支援センターと緊密な連携に努め、センターで心理面接を実施している。

②外国語のパンフレットを活用して相談に応じており、センターでは通訳を利用している。

③今後も各機関の機能・役割に留意し連携を図っていく。

### 幼児養育費補助制度を 拡充すべきである

常松大介議員(フオ) ①公的補助を受けている施設と受けていない施設では補助制度も異なるが、受けていない施設を選択した保護者が抱くと思われる不公平感に対する認識は。

②支給方法を保護者補助金と同様に改善できないか。

市長 ①どちらも世帯の所得に

関係なく、一律に補助しているため、不公平感はないと認識している。

### 認定こども園の試み等 子育て支援のこれからについて

日向美砂子議員(緑ネ) ①認定こども園の開設の準備状況は。

②ファミリー・サポート・センターの課題は。

③保育施設に地域的な偏りがあると思うが対策は。

市長 ①幼稚園1園から申し出があり、調整をしている。

②提供会員の獲得に向けたPRと研修の充実を図りたい。

③必要な場所に配置してきたが、特定地域での需要が高まることもあるので、施設的に余裕がある幼稚園は、認定こども園へ移行していきたい。

### 保育料滞納問題について

鴨打喜久男議員(政和) ①保育料滞納の状況は。

②払えるのに払わない人への対応は。

③払えない人への対応は。

市長 ①平成18年度は56世帯、70人で、滞納額は約590万円となっている。

②電話での催告や催告書の発送、自宅訪問、勤務先訪問等により支払いを促している。